

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	715A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：715A

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

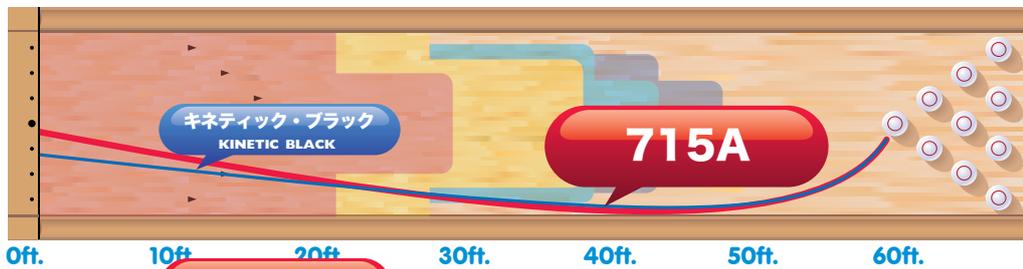
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：Kinetic Black

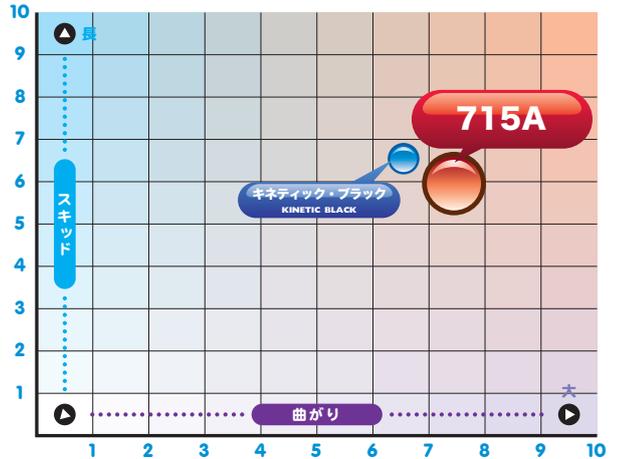
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

トラック社新たなる取り組みは505Cからすでにスタートし、「5」の持つカバーストック性能Mid、下二桁が持つマスバイアス差異、「C」が表すコントロール性能は多くの方に支持を頂き、市場調査でも高い評価を頂きました。

今回トラック社が第二弾で発売するのは「7」が持つUpper mid、下二桁「15」をもつマスバイアス差異、「A」が表すAngularの性能、715Aです。

トラック社が今回「A」の頭文字に求めたものは、オイルに強く、尚且つバックエンドで大きく動き幅を取れる「走り感と切れ味」です。「A」の称号は十分なスキッドを得られることと同時に、その回転エネルギーをバックエンドまで蓄えること。

ドライゾーンでの反応の良いカバーストックで一気に反応させ、切れを演出させ、多くの入射角度を有効にすること。

またこの事がハイスコアを得るために必須であり、必要不可欠であると言う事に他なりません。

去る6月1日から6日全国6会場でダイナミックツアーが敢行され、トラック社マイク・ウルフによるデモンストレーションも行われ、今回コンセプトである「T」、「A」、「C」3種類のパフォーマンスもはっきりとした性能の差として感じて頂いたことと思います。

オイルに負けない曲がり「A」、走りと切れを追い求めた「A」、コントロール性能をを發揮できる「C」。この3種類を持ってすれば、あらゆるコンディションに対応できるくらい3つのボールの性能は各々の領域で非常にバランスが取れています。

トラック社新しいコンセプトで生まれた第2弾の715Aの性能をその手でお試ください。

特記事項

「A」の称号を語るに相応しい走りや切れを演出してくれます。切れるイメージの性能であっても扱い易く、様々なラインからポケットまでの入射角が取れるボールです。